
キャリア教育に関する研究

久 保 吉 生

はじめに

大学におけるキャリア教育の必要性について考察した。「キャリアデザイン」、「キャリア開発」「キャリア形成」などのキャリア教育科目を導入する大学が急増している。法政大学のようにキャリアデザイン学部を創設するといった動きもある。何故このような動きが加速化しているのか、キャリア教育とは、就職支援活動とどのように違うのだろうか、そもそも教育の目的はキャリア支援ではないのか。そうだとするならば、従来の大学のカリキュラムには、キャリア支援の観点から、不十分な点、不足する要素があるのだろうか。何故新たにキャリア教育科目を設置する必要があるのだろうか。このように、さまざまなことを調べ、研究してみる必要がある。またつくば国際大学の学生の就業実態、就業力についても、把握し、改善のためにキャリア教育を導入することが適切な対応策なのか、考えてみることも重要である。

〈調査、分析の方法〉

大学におけるキャリア教育の先進事例を研究するために、さまざまな学会やフォーラムに参加し、どのような目的で、どのような内容のキャリア教育を実践しているのか、またそれらの教育効果はどうか、などについて調査した。キャリア教育を計画的にかつ組織的に教育カリキュラム全般に組み込んで成果を挙げていることで知られている金沢工業大学には、個別に実地調査を実施した。

一方、つくば国際大学産業社会学部の学生の就業力を把握するために、産業情報学科、社会福祉学科の1～3年生全員を対象に、職業適応検査、SPI能力適性テストを一斉に実施した。検査、テストについては、2006年度は両学科の2、3年次生を対象に行った。

1. 先進事例についての情報収集

キャリア教育に関する調査・研究を行うために、幾つかの学会等に重点的に参加した。その中の代表的なものは以下の通りである。

- ・第11回FDフォーラム「これからの大学教育」2006年3月開催 財団法人大学コンソーシアム 京都主催
- ・第45回大学教員セミナー「大学におけるキャリア教育」2006年9月開催 八王子セミナーハウス主催
- ・日本キャリア教育学会第28回研究大会「発展段階に応じたキャリア教育の展開」
- ・労働政策フォーラム「大学生のキャリア形成をどう支援するか」2006年7月開催 独立行政法

人 労働政策研究・研究機構（JILPT）主催

いずれも、2日間にわたる研究会で、講演、研究報告、分科会における議論などによって構成されており、キャリア教育に関して、理念、目的、授業内容、教育効果などについて、数多くの先進事例に接することができ、また多くの先生方やキャリアカウンセラーの考え方を理解することが出来、大変参考になった。

この他、キャリア支援の考え方を徹底させ、FYE（事前教育）から就業まで一貫したカリキュラム構成で、系統的にかつ組織的にキャリア教育を行って、教育成果をあげている金沢工業大学と、独立行政法人 雇用能力・開発機構「私のしごと館」などの研修視察を行った。また、「ジョブカフェいばらき」を訪問し、茨城大学はじめ、茨城県内の近隣大学におけるキャリア教育の現状について、そして専門のキャリアカウンセラーがどのように大学のキャリア教育に関わっているかなどについても調べた。

2. 先進事例についての考察

学会等で全国の大学の数多くの先進事例に接し、さまざまなキャリア教育の専門家の考え方や意見を聞き、基本的にどのような教育方針でキャリア教育を導入すべきか、どのような授業内容が望ましいか、キャリア教育科目を担当する教員にはどのような資質が求められるか、専任教員が一人で担当すべきか、外部のキャリアカウンセラーや事業経営者、公共団体の雇用問題の専門家などに授業を随時委託すべきかどうか、校内の就職指導課との連携をどのように図るべきかどうか…など、幾つかの重要と考えられる課題について、考察することができた。以下にそれぞれの課題についての考察の結果をまとめた。

（1）キャリア教育の理念と目的

近年わが国の大学でキャリア教育の必要性がうたわれ、導入の機運が盛り上がってきている背景には、1990年代後半、就職氷河期といわれるように、大学生の就職難がきっかけになっている。就職できず、あるいは就職を回避して、フリーターやニートになる若者が急増しているという社会現象も指摘されている。また就職しても、早期に離職する大学卒業生が増えていることも問題になっている。

このような社会情勢の中で、従来のような就職指導の枠組みでは、キャリア支援活動にも限界があるという認識が深まってきた。就職指導をより積極的に、さまざまに活動範囲を広げる取り組みが行われるようになってきた。同時に、教育カリキュラムにも就業支援を目的とした授業を取り込んだ方がよいのではないかという考え方が醸成され、キャリア教育を導入する大学が急増していると考えられる。

そもそも、大学教育の目的のひとつは就業支援でもある。従来の教育カリキュラムを履修することによって、教養を身につけ、コミュニケーション能力を高め、社会人として、さまざまな問題に対する対応能力を身につけることができる。したがって、新しくキャリア教育科目を設置する必要はないという考え方も成り立つ。

しかしながら、あえて「キャリアデザイン」、「キャリア形成支援」といった科目を設置する目的

は、学生に対して、大学における就学の意義をより深く理解させ、社会人として生きていくために、一人一人が、いかに自分の固有のキャリア形成を考えることが大切かということに気づいてもらう、一人一人のライフプランをデザインすることによって、大学で何を学ぶべきなのか、就学の目的をより明確にし、学ぶ意義を深く理解してもらう…といった教育効果が期待できるからだと考えることができる。

むしろキャリア教育科目は他の科目と対立する存在ではないし、そのように運用しては逆効果になる場合もある。あるいは全く独立した専門科目というよりも、他の科目との相乗効果が期待できる、料理に例えれば、それを加えることによってより味が引き立つ一種のスパイスのような役割を演じることも期待されている。

（２）キャリア教育の内容

キャリア教育科目の代表的な名称は「キャリアデザイン」「キャリア形成支援」「キャリア形成と自己実現」「キャリア開発」などである。キャリア教育の内容は担当する教員や教育体制などによっても異なり、幾つかのタイプに分けられる。

さまざまな学会等に参加して気がついたことに、キャリア教育を担当している教員には、企業出身者、キャリアカウンセラー、コンサルタント、就職専門誌の編集者、元高等学校教員などが多いことがあげられる。担当教員がコーディネーターのような役割を演じながら、他の教員や外部のカウンセラーやコンサルタント、企業の経営者や人事の採用担当者などを講師として招くといった方法をとっている大学の例も多い。

したがって、授業内容も、日本の経済社会の仕組み、雇用情勢、日本の企業経営の変化などにウエートを置くようなものもあれば、自己分析に力を入れるものがあるというように、多様であることが分かった。

キャリア教育の課題とは何か、その目的に照らし、基本的な概念を整理し、３つの要素にまとめることができる。

- ・ 自己をみつめ、自己分析をする……職業興味度テスト、適性検査などを行うこともある。
- ・ 働く意義を考え、社会の仕組みを知る……さまざまな仕事、産業、企業の動向など。
- ・ 職業適性を考える……実践的な就業適応力を磨く。SPI（能力適性テスト）などを行うこともある。

以上のような３つの要素を基本に、それぞれの大学の学生の気質、性格、教養レベルに対応して、授業内容を検討することが必要である。大学の学部によって、他のカリキュラムとの整合性も考慮する必要がある。文系と理系では異なるし、文系でも、経済や経営、情報、法律、などさまざまな学科があり、それぞれにどのような要素にウエートを置くべきか、違ってくるのは当然である。

（３）教育体制

キャリア教育の難しさは、キャリア教育に必要な、基本となる３要素それぞれに担当する教員に求められる資質、専門領域が異なることにある。カウンセラーやコンサルタント、社会で働いた経

験があるかないかなど、さまざまな能力、知識が求められる。キャリア教育を担当する教員の“適性”が問われる問題でもある。

数人のキャリアカウンセラーに委託して、授業を運営するというやり方をとっている大学もある。また就職課や就職指導課、あるいはキャリアセンターなどの責任者が主体的に授業を運営するといった例もある。いずれの場合にも課題が多く存在すると考えられる。

しかも、キャリア教育では、できるかぎり一人一人の個性や適性を考慮しながら、気づきを促し、職業適性を発見するという、共同作業的な要素が加わってくる。大教室で学生数100人以上を対象に講義するといった授業スタイルでは、十分な教育効果をあげることはむずかしいという面もある。

一方、大学や学部、学科等の性格、教育方針との整合性を考え合わせながらということになると、それぞれの領域の専門家や実務経験者などの外部講師にまかせるという方法にも限界があり、やはり、授業のイニシャチブは専任教員がきちっととらなければならないと考える。

3. 一斉テストを実施

(1) つくば国際大学の特色と就職状況

つくば国際大学は2007年4月から従来の産業社会学部に加え、新たに医療保健学部を創設、2学部4学科の体制となったが、キャリア教育は産業社会学部の課題として捉え、導入を目標として調査、研究を行った。産業社会学部には産業情報学科と社会福祉学科の2学科があり、学生数は670名(2007年4月)である。

キャリア教育関連科目では、2005年度に、産業情報学科に「インターンシップ」(2, 3年次, 選択, 後期, 2単位)を設置した。インターンシップの受講者は毎年5~6名と少ない。

一方、就職状況をみると、産業社会学部全体の就職希望者内定率は、年度末に9割に達するものの、内定が決まる時期が遅く、内定先は金融・証券、情報、流通、サービス、不動産関係の上場企業や大手企業もあるが、全体として地元の中小企業が多くなるのが特徴である。

産業情報学科は2005年度から情報ビジネスコース、情報技術コース、金融・証券コースの3コース制をとっており、2年次から各コースに分かれて、専門的かつ実践的な教育を行っている。インターンシップやコース制の成果が少しずつではあるが就職にも成果として表れている。

社会福祉学科は、年度末に社会福祉士国家試験があり、毎年3~4割の学生が受験する。福祉・介護施設、医療施設等に就職する割合が高いが、卒業生の過半数は、流通、サービス業に就く傾向が強まっている。内定率は産業情報学科よりもやや低く、内定が決まる時期は遅い。地元の中小企業への就職が多い。両学科とも、毎年卒業生の1割程度が無業者であり、中にはフリーター、ニートが含まれている。

(2) 遅い対応

就職活動で指摘できる特徴のひとつが、対応の遅れだといえる。就職活動で、どのタイミングで、何をしなくてはいけないか、どのような段取りで、どのようなことを考えて、対応しなくてはいけないか…そうした実行計画をたて、行動に移すということができない学生が多い。就職活動に関し

て、少人数のセミナーを通じて、教員が行う就職面談などによって、できるだけ早く、行動するように指導しているし、また就職指導課が、就職活動を支援するために、さまざまなメニューを揃えている。説明会やSPI対策、エントリーの仕方、エントリーシートの書き方、履歴書の書き方、面接への対応など。

しかし、学生の参加意識が低く、就職活動に向けて、自らにスイッチオンして、眠りから覚め、行動に移す時期が遅い、しかも何をどのようにしたらいいのか、的確な行動計画を作成できないといった状況である。

（3）適性検査、SPIテストの一斉実施

産業社会学部でキャリア教育科目を設置することを目的として、学生の就業意識や職業適応力、SPI（能力適性）などの実態を調べるために、2006年10月、初めての試みとして、2，3年次生全員を対象に、一斉検査・テストを行った。産業社会学部では、1年次から少数セミナー制をとっているが、セミナーを通じて一斉検査・試験の目的を周知徹底し、セミナーの時間を割いて検査・試験を行った。検査・試験の結果を学生にフィードバックする方法についても、セミナーを通じて、解説や、結果の活用の仕方などについて、きめの細かい指導を行った。

一斉検査・試験の参加率は職業適応検査が86%，能力適性テスト（SPI）が88%と比較的高かった。就業意識が高まっている3年次の参加率が高く、2年次の参加率がやや低いという傾向みられた。

- ・SG式総合職業適応検査大学生版＝SAI＝（実務教育出版社） 検査実施時間90分
職業希望調査，業種希望調査，資格・検定調査，能力スケール，就職意識スケール，適応態度スケール，興味スケール，価値態度スケール
……自己分析を目的として，自己理解を深め，職業適性や職業生活への適応性などを測定する。同時にSPIで能力を把握する。それらによって就業意識を高めるといった内容になっている。
- ・SPI対策 能力適性テスト（実務教育出版社）
言語能力30分，非言語能力40分

（4）検査・試験の結果分析

●SG式総合職業適応検査＝SAI＝の結果

産業情報学科2，3年次，社会福祉学科2，3年次 受験者296名
業種希望分布と資格・検定等取得状況

業種希望分布と資格・検定等取得状況

希 望 業 種	人数(人)	比率(%)	資 格 ・ 検 定	人数(人)	比率(%)
農・林・水産	3	1	秘書	5	2
鉱業	1	0	パソコン	104	35
建設業	1	0	珠算	31	10
製造業	10	3	簿記	29	10
商業（商社、卸・問屋）	13	4	宅地建物取引主任	2	1
小売業	16	6	語学	37	13
金融・保険業	15	5	情報処理技術者	22	7
不動産業	1	0	看護師，保健師	1	0
運輸・通信業	4	1	保育士，幼稚園教諭	6	2
エネルギー業	1	0	小・中・高教諭	2	1
教育	33	11	図書館司書	0	0
放送，マスコミ	14	5	社会福祉士，児童福祉司	129	44
サービス業	41	14	身体障害者福祉司		
医療	39	13	調理師	2	1
情報・調査	17	6	栄養士	1	0
公務員	84	28	理容師，美容師，トリマー	1	0

特徴的なことは以下の通り。

- ・取得・資格（取得予定も含む）の面で，産業情報学科ではパソコン検定，情報処理技術者，社会福祉学科では社会福祉士など福祉関係の資格を取得，もしくは取得予定の割合が高いことである。産業社会学部の，実践的教育方針のもとで，資格取得を奨励，指導していることが反映している。
- ・社会福祉関係の仕事に就きたいという希望者が，教育，医療，公務員などの項目に分散して希望する結果となった。
- ・製造業，不動産，運輸・通信業などよりも，商業，小売，サービス業を選考する傾向が強い。
- ・以前は少なかった金融・証券関係の希望者が増えている。簿記やフィナンシャルプランナー，証券外務員などの資格取得も増えていると考えられる。

●SPI対策 能力適性テスト 成績表 受験者302名

平均点と偏差値

	総 合 (200点満点)	言 語 (100点満点)	非言語 (100点満点)
得点平均	67.4	47.0	20.5
偏差値	43.7	43.9	45.3

偏差値は実務教育出版社が行っている全国の大学，短大，専門学校などの学生約5万人を対象に計算している。

学内総合得点分布 受験者302名

得点圏	200～141	140～121	120～101	100～81	80～61	60～41	40～21	20～0
人数	0	1	10	61	115	100	15	0
比率 %	0	0	3	20	38	33	5	0

学内総合判定分布 受験者302名

総合判定	A	B	C	D	E
人数	2	18	108	137	37
比率 (%)	1	6	36	45	12

A→成績はかなりすぐれている B→成績はややすぐれている C→成績は普通
D→成績はやや下位方である E→成績は下位の方である

試験結果を分析してみると、特徴的なことは以下の通り。

- ・ S P I（synthetic personality inventory）は言語能力、非言語能力に分かれ、常識を問う試験と位置づけられるが、偏差値や判定A～Dの分布に表れているように、全国平均をやや下回る水準に分布されていることが分かる。S P Iを採用して筆記試験を行っている企業への就職は、偏差値では50以上、判定ではCの上位者と、B以上と考えられるので、そのウエートは20%未満であることが分かる。
- ・ 言語能力、非言語能力とも、偏差値でみると、同様のレベルにあるが、言語能力が非言語能力をやや下回っている。
- ・ 言語能力を高める必要性が高く、そのためにはキャリア教育科目は無論のこと、他の科目でも、読み書きの能力を高める工夫をすることが必要である。また非言語能力向上のために、対策講座など特別の教育プログラムが必要といえる。

4. 検査・試験結果のフィードバック

S G式総合職業適性検査（S A I）と、S P I対策能力適性テストの結果は、受験した学生一人一人に、検査・試験の結果を詳しく分析し、別紙に見るように、2枚のシートに整理、記載して、フィードバックされた。したがって、検査や試験の目的、意義、その結果が表している就業能力などについて、理解が深まったと考えられる。

5. キャリア教育科目の新設

キャリア教育について、多くの先進事例を調査、研究した。同時に適性検査とS P Iの能力試験を実施し、産業社会学部の学生の就業能力の実態把握につとめた。その結果、キャリア教育科目の設置は必要性が高く、かつできる限り早期に実施する必要があるとの認識に達した。しかも、読み書きの能力や非言語能力を高めるために、できるだけ低年次から、キャリア教育を行って、学生に

科目名	キャリアデザイン	教員名	久保吉生	学科等	産業情報・選択	履修年次	2, 3
				曜日・時限等	月 5・前期	単位数	2
授業の目標と指導方法		職業人生（キャリア）形成を考える。各個人が自己分析を行なって、自分の適性や能力を知り、最も適切な自己実現をはかることができるように、対応能力をつける。働く意味を考え、さまざまな職業を分析してみる。就業体験（インターンシップ）に参加して、実践的に職業適性を考えてみよう。					
授業の概要	主 題		指 導 内 容		主 題	指 導 内 容	
	1.キャリアデザインとは		キャリアデザインの重要性		16.		
	2 近年の労働市場		社会の仕組み、労働市場の動向		17.		
	3.働くことの意義		働くことの意味を考える		18.		
	4.適性とキャリア形成(1)		適性検査を実施する		19.		
	5.適性とキャリア形成(2)		SPI(能力適性)を実施する		20.		
	6.適性とキャリア形成(3)		適性検査、SPI結果のフォロー		21.		
	7.適性とキャリア形成(4)		〃		22.		
	8.職業世界を知る(1)		さまざまな職業を分析する		23.		
	9.職業世界を知る(2)		〃		24.		
	10.職業世界を知る(3)		〃		25.		
	11.SPI対策(1)		言語能力の対策講座		26.		
	12.SPI対策(2)		非言語能力の対策講座		27.		
	13.インターンシップ指導(1)		インターンシップの意義と実施要領		28.		
	14.インターンシップ指導(2)		インターンシップの実践に向けて		29.		
	15.総括				30.		
成績評価の方法		受講するひとりひとりについて、自己分析がきちんとできたか、自己実現、キャリアデザインなどが出来るようになったか、随時行なう報告書の作成や発表、小論文などで確認する。					
教科書	書 名	キャリアデザイン概論	著 者	本間啓二、金屋光彦 山本公子共著		発 行 所	社団法人 雇用問題研究会
参考図書	書 名	若者はなぜ3年で辞めるのか	著 者	城繁幸		発 行 所	光文社新書
備考	職業世界を知るために、視聴覚教材を活用し、地元企業の経営者や大学のOBなどにも話を聞く機会を設ける。インターンシップ（就業体験）に積極的に参加して欲しい。						

科目名	キャリア形成と自己実現		教員名	久保吉生	学科等	共通・選択	履修年次	1, 2
				椎名清和	曜日・時限等	月5・後期	単位数	2
授業の目標と指導方法		一人ひとりが自分の職業人生（キャリア）の形成について考える。各個人が自己分析を行なって、自分の適性や能力を知り、最も適切な自己実現をはかることができるように考える。そのためには、どのような対応策が必要か、どのようなことを学習していけばいいのか、一緒に考えていこう。						
授業の概要	主 題	指 導 内 容	主 題		指 導 内 容			
	1.		16.キャリア形成とは何か		キャリア形成と自己実現の意義			
	2.		17.働くことの意味		働くことの意味を考える			
	3.		18.自己分析(1)		適性検査、SPI(能力適性テスト)を実施			
	4.		19.自己分析(2)		適性検査の意味と検査結果の生かし方			
	5.		20.自己分析(3)		適性検査の結果分析、フォローアップ			
	6.		21.自己分析(4)		〃			
	7.		22.自己分析(5)		自己理解を深めよう			
	8.		23.SPI対策講座(1)		言語能力の向上・演習			
	9.		24.SPI対策講座(2)		〃			
	10.		25.SPI対策講座(3)		非言語能力の向上・演習			
	11.		26.SPI対策講座(4)		〃			
	12.		27.職業世界を知る(1)		社会の仕組み、労働市場の動向			
	13.		28.職業世界を知る(2)		さまざまな職業を紹介し分析する			
	14.		29.職業世界を知る(3)		〃			
	15.		30.総括		キャリア形成と自己実現を考える			
成績評価の方法		受講するひとりひとりについて、自己分析がきちんとできたか、自己実現、キャリアデザインなどが出来るようになったか、随時行なう報告書の作成や発表、小論文などで確認する。						
教科書	書名	キャリアデザイン概論	著者	本間啓二、金屋光彦 山本公子共著		発行所	社団法人 雇用問題研究会	
参考図書								
備考		専門のキャリアカウンセラーにも授業に参加して戴き、働くことの意義、適性検査結果などについての説明を行ってもらう。職業世界を知るために視聴覚教材等を活用する。						

自己分析力や就業対応能力などの不足にはやく気づいてもらうことが重要であると考えらるに到った。そこで、2007年度から、「キャリアデザイン」「キャリア形成と自己実現」の2つのキャリア教育科目を新設することに踏み切った。

2科目の授業概要とシラバスは別紙の通りである。

(くぼ よしお 産業情報学科)

参考文献：

- (1) 本間啓二, 金屋光彦, 山本公子共著 2006年 キャリアデザイン概論 社団法人 雇用問題研究会刊
- (2) 法政大学大学院キャリアデザイン学研究調査報告2006
- (3) 日本キャリア教育学会 第28回 研究大会発表論文集 2006年
- (4) 就職支援の手引き2006年 独立行政法人 労働政策研究・研修機構編
- (5) エドガー・H. シャイン著 金井壽宏訳 2007年 キャリア・アンカー 自分の本当の価値を発見しよう 白桃書房
- (6) ショーン・コヴィー著 フランクリン・コヴィー・ジャパン編 2007年 7つの習慣ティーンズ キングベア出版
- (7) SET著, SPI-2の完璧対策2008年度版 日経ナビ&就職ガイド編集部編
- (8) 城繁幸著 2006年 若者は何故3年で辞めるのか? 光文社新書
- (9) 谷内篤博著 2006年 大学生の職業意識とキャリア教育 勁草書房

能力適性テスト 個人成績表

受付番号	学校番号	学生番号	性別	氏名
300242	54-10070	XXXXXX	男	XXXXXX

あなたの希望職種

第1希望	販売・サービスの職
第2希望	販売・サービスの職
第3希望	販売・サービスの職

希望業種

第1希望	商業
第2希望	小売業

1. 総合成績

	得点	平均点	偏差値	誤差率	判定	換算順位(100人※として)
総合	95/200点	82.5	55.2	47.8	B	100人中上から 31位
言語	63/100点	55.7	55.1	35.7	B	100人中上から 31位
非言語	32/100点	26.9	53.7	68.0	C	100人中上から 35位

2. 希望職種内換算順位(100人※として)

	第1希望職種内	第2希望職種内
総合	100人中上から 24位	100人中上から 24位
言語	100人中上から 28位	100人中上から 29位
非言語	100人中上から 26位	100人中上から 26位

あなたの希望した職業の大分類の中で最上位を出しています。

3. 希望業種内換算順位(100人※として)

	第1希望業種内	第2希望業種内
総合	100人中上から 30位	100人中上から 19位
言語	100人中上から 34位	100人中上から 24位
非言語	100人中上から 32位	100人中上から 23位

あなたの希望した業種の中で最上位を出しています。

4. 得点分布表での位置

あなたの位置を下のグラフで表示します。

言語

非言語

5. 分野別成績分析

下位分野	解答状況	得点	平均点	誤差率	判定
反対語	①②③④⑤	8 / 14点	8.0	42.9	C
語の関係	①②③④⑤⑥	10 / 14点	10.1	28.6	C
語の意味	①②③④⑤⑥	8 / 14点	7.6	42.9	C
語の用法	①②③④⑤⑥	10 / 14点	9.3	28.6	B
文章構成	①②③④	9 / 12点	6.9	25.0	B
文章読解	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	18 / 32点	13.7	40.0	C
式と計算	①②③④	12 / 20点	9.3	40.0	B
関数と領域	①②③④	4 / 16点	4.9	75.0	D
図表の問題	①②③④⑤⑥	8 / 20点	5.6	60.0	C
命題と推理	①②③④	4 / 16点	1.2	75.0	D
数の性質	①②③④⑤	4 / 20点	2.6	80.0	D
物理の問題	①②③	0 / 8点	0.3	100.0	E

6. 分野別リーダーチャート

7. 総合コメント

●あなたの得意分野と弱点分野

あなたは、言語分野では語の用法、文章読解の分野の成績がたいへんすぐれています。非言語分野では式と計算の分野の成績がたいへんすぐれています。言語と非言語では成績の差はあまりないようです。

今回は、非言語分野では物理の分野の分野を特に難化し、物理を題材にした問題をこなし、問題に慣れさせよう。

●全体の成績と希望合格可能性

あなたの希望職種からみると、総合成績は中位より上位に、言語成績は中位より上位に、非言語成績は中位より上位に、あなたの成績の誤差率は、特に高くはありません。さらに誤差を少なくし、全体の成績を高めるよう、努力してください。

希望職種内・希望業種内とも中位より上位にいます。合格は十分ありそうですが、十分ではありません。自分の特色分野を発揮してください。

実務教育出版

40

SPI対策

能力適性テスト 個人成績表

受付番号	学 校 番 号	学 生 番 号	性 別	氏 名
300242	ラキ-40070	X X X X X	男	X X X X X

あなたの希望

職 種	第1希望	第2希望	業 種	第1希望	第2希望
	販売・サービスの職種	商品販売関係		商業	
	販売・サービスの職種	サービスの職種		小売業	

1. 総合成績

	得 点	平均点	偏差値	誤差率	判定	換算順位 (100人中)
総合	95/200点	82.5	55.2	47.8	B	100人中上から 30位
言語	63/100点	55.7	55.1	35.7	B	100人中上から 31位
非言語	32/100点	26.9	53.7	68.0	C	100人中上から 35位

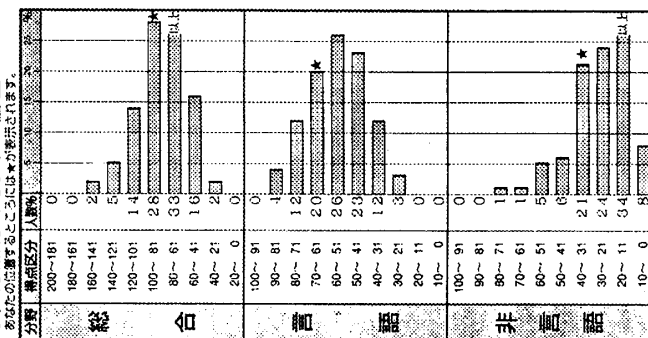
2. 希望職種内換算順位 (100人中として)

	第1希望職種内	第2希望職種内
総合	100人中上から 24位	100人中上から 24位
言語	100人中上から 29位	100人中上から 29位
非言語	100人中上から 26位	100人中上から 26位

3. 希望業種内換算順位 (100人中として)

	第1希望業種内	第2希望業種内
総合	100人中上から 30位	100人中上から 19位
言語	100人中上から 34位	100人中上から 24位
非言語	100人中上から 32位	100人中上から 23位

4. 得点分布表での位置

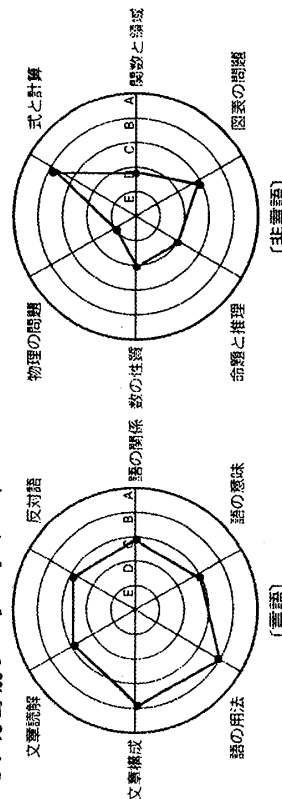


偏差値とはどのようなものか？ 偏差値とは、自分の得点と、全受験者の得点の平均値とを比較して算出される数値です。偏差値が50の人は、全受験者の得点の平均値と同等の得点です。偏差値が60の人は、全受験者の得点の平均値より10点高い得点です。偏差値が70の人は、全受験者の得点の平均値より20点高い得点です。偏差値が80の人は、全受験者の得点の平均値より30点高い得点です。偏差値が90の人は、全受験者の得点の平均値より40点高い得点です。偏差値が100の人は、全受験者の得点の平均値より50点高い得点です。

5. 分野別成績分析

	下位分野	解答状況	得点	平均点	誤差率	判定
言語	反対語	①②③④⑤⑥⑦	8 / 14点	8.0	42.9	C
	語の関係	⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮	10 / 14点	10.1	28.6	C
	語の意味	⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓	8 / 14点	7.6	42.9	C
	語の用法	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛	10 / 14点	9.3	28.6	B
	文章構成	㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴	9 / 12点	6.9	25.0	B
非言語	文章読解	㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	18 / 32点	13.7	40.0	C
	式と計算	㊿㊿㊿㊿	12 / 20点	9.3	40.0	B
	関数と領域	㊿㊿㊿㊿	4 / 16点	4.9	75.0	D
	図表の問題	㊿㊿㊿㊿	8 / 20点	5.6	60.0	C
	命題と推理	㊿㊿㊿㊿	4 / 16点	4.2	75.0	D
	数の性質	㊿㊿㊿㊿	4 / 20点	2.6	80.0	D
	物理の問題	㊿㊿	0 / 8点	0.3	100.0	E

6. 分野別リーダーチャート



7. 総合コメント

●あなたの得意分野と弱点分野

あなたは、言語分野では語の用法、文章構成の分野の成績がたいへん高くついています。非言語分野では式と計算の分野の成績がたいへん高くついています。言語と非言語の両方とも得意分野と弱点分野を把握し、今後の学習に役立ててください。

●全体の成績と希望合格可能性

あなたの換算順位からみると、総合成績は中間より上位に、言語成績は中間より上位に、非言語成績は中間に入りまう。あなたの成績の換算率は、特に高くありません。さらに、あなたの成績を総合すると、全体の成績を高めよう、努力してください。希望合格内・希望合格外とも中間より上位にいます。満足は、かなり高いようですが、十分ではありません。自分の得意分野を克服してください。

Examination of Career Education

Yoshio Kubo

The purpose of this study is to examine whether it is necessary to introduce career education. To investigate many advanced cases, we attended several societies intensively. On the other hands, we did an general aptitude inspection and a SPI test for students of Tsukuba International University.

The conclusion of these examinations was that it is necessary to introduce career education as soon as possible. For that reason, we decided to set up new items in the 2007 fiscal year. The name of items are “Career Design” and “Career Development and Self-realization”

Key words: キャリア教育 : career education, キャリアデザイン : career design, キャリア形成 : career development, 自己分析 : self-analysis, キャリアアンカー : career anchor, キャリアカウンセラー : career counselor